

実験動画授業ヒントに

県教育総合研教員支援へ作成



お茶の水女子大から提供されたキットを使って実験動画を撮影する職員。5日、坂井市の県教育総合研究所

お茶の水大開発キット活用

授業の教材や教諭が理科実験を行う際のヒントにしてもらおうと、県教育総合研究所(坂井市)が、お茶の水女子大(東京)から実験キットの提供を受け、動画を作成している。キットは安価で入手しやすいものを使うのが特長で、同研究所は「子どもたちの理科実験に親むきかけ作りになれば」と活用を期待している。同大は、災害時に教育を途切れさせないよう、日用品やおもちゃなどを用い、どこでも理科実験ができるキットを開発。今回、動画配信など同研究所の活動

に協力したいと無償提供を申し出た。

同研究所は小学3〜6年の各学年用のキット3セットと実験補助道具3セットの提供を受けた。1学年のキットセットには約10の実験道具が入っていて、▽粘土と型紙で生物の体のつくりを学ぶ(3年)▽市販の伸び縮みするおもちゃで筋肉の動きを学ぶ(4年)▽ピンポン球で月の満ち欠けを学ぶ(6年)―などがある。

同研究所の澤大輔企画主任は「学校が再開し、授業を急ピッチで進めていかなければならない中、動画が教師の支援になれば、自宅での学習にも活用してほしい」と話している。

同研究所は3月下旬から、小学3年〜中学3年向けに実験動画27本を作りホームページで公開してい

る。今後はキットを用いた動画も含めて、1週間に3本ずつ追加していくという。(吉田拓弥)